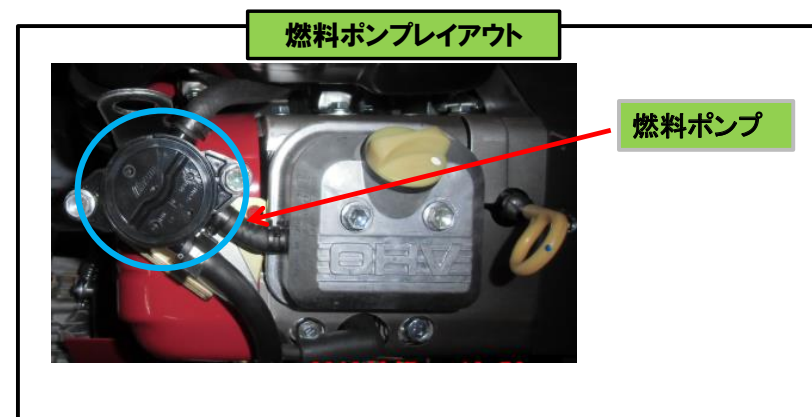
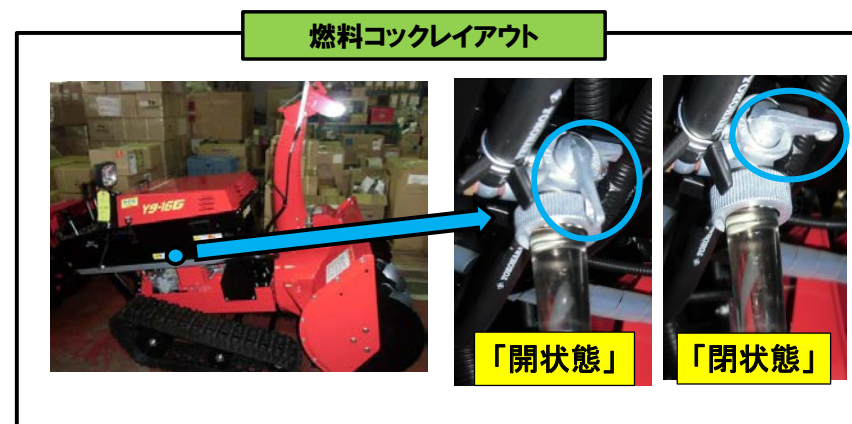
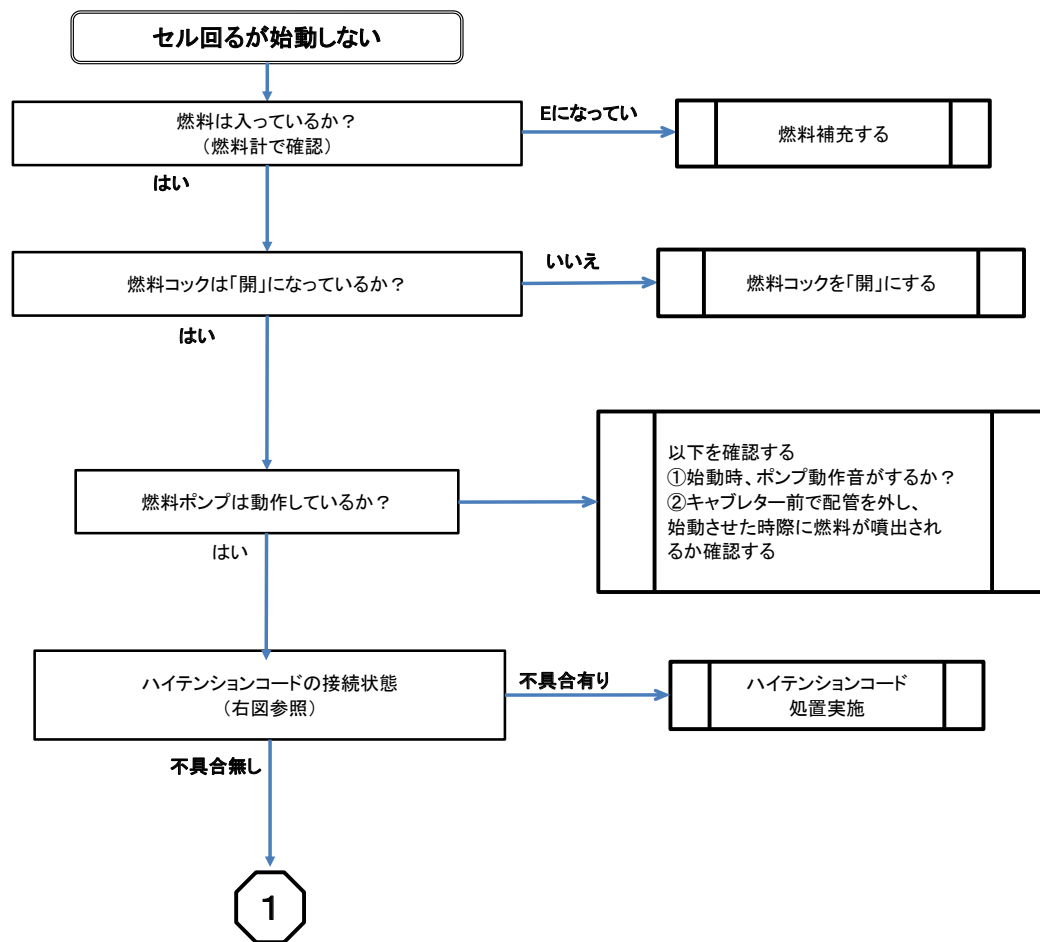


エンジン始動異常(セル回るが始動しない) 機種: 9-16G



エンジン始動異常(セル回るが始動しない) 機種: 9-16G

1

チョークをめいっぱい引いた状態でエンジンを回す。その後エンジンプラグを取り外して電極の状態を確認する。
判定1: 電極が濡れていれば燃料供給系は問題無し。
判定2: 乾燥している場合には燃料が供給されていない可能性があるため、フロート確認～インジェクション回り迄燃料供給系を調査する事

判定1の場合

外したプラグをエンジンのボディに接触させた状態でクランキングさせて、スパークの有無を確認する

スパークする

- ①スパークプラグの緩み
- ②シリンダヘッドボルトの緩み
- ③シリンダヘッドガスケットの吹き抜け
- ④バルブクリアランス不良

判定2の場合
キャブレターに不具合の可能性があるため、各エンジンマニュアルに記載のキャブレターの項目を参照し対応して下さい。

スパークしない

スパークプラグを別の物と交換しエンジンボディに接触させ、クランキングしてスパークするか確認。

スパークしない

スパークする

プラグをエンジンに取付け始動するか確認する。

グランドワイヤーターミナルを外して再度スパークの有無を確認

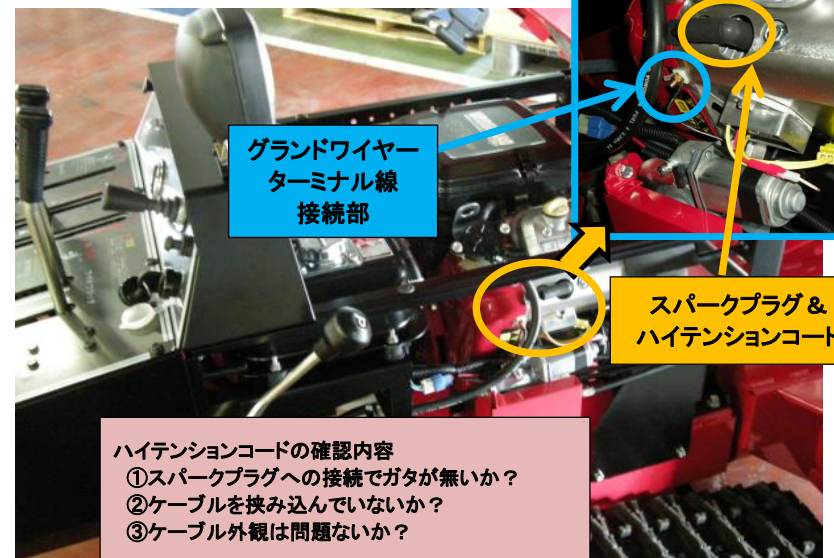
スパークする

グランドワイヤーターミナルがエンジンに接触している箇所を調査・対処する。(キースイッチ側も確認)

スパークしない

- 以下を確認し、場合により処置実施。
- ①フライホールキーの切断
 - ③アマチュアエアギャップが広すぎる
(適正値0.2～0.3mm)
 - ④アマチュアコイルの断線

ハイテンションコード接続箇所と確認内容



ハイテンションコードの確認内容

- ①スパークプラグへの接続でガタが無いのか?
- ②ケーブルを挟み込んでいないのか?
- ③ケーブル外観は問題ないのか?

スパークプラグ電極状態確認

電極部の状態を確認し、燃焼室内の燃焼状態を推測する。

- (1) 極端に白い場合: 下写真 A状態
 - ①混合気が薄い ②過負荷状態 ③オーバーヒート状態
 - (2) 適正な状態: 下写真 B状態
 - (3) 黒くカーボンが付着(濡れている)場合: 下写真 C状態
 - ①混合気が濃い ②エアクリーナーの詰まり
 - ③電極部GAPが広すぎ
- 以上が要因の一例として考えられる。

